



さくら市立氏家小学校 学校だより

5月号

氏小だより



大志ちゃん

令和7年5月15日発行

発行者 氏家小学校長

よく考える子 なかよくする子 体をきたえる子

すべての子どもが輝く学校

児童が輝く授業参観 ～お忙しい中ありがとうございました～

新年度が始まって1か月が経ちました。保護者の皆さまのおかげで、児童は毎日元気に登校しています。新しい友達や担任にも次第に慣れて、とても活動的になってきました。

4月23日の授業参観では、保護者の皆様にお世話になりました。お家の方に見ていたかどうかということで、児童も張り切って授業に臨んでいました。学年懇談や保護者懇談等の折にいただいたご意見等を児童のよりよい指導のために、校内で共有していきます。また、子どもたちのがんばりをお伝えしていきますので、ぜひお家でも褒めていただければ幸いです。

今後とも子どもたちの応援団として、本校教育活動にご理解とご協力をいただきますよう、お願いいたします。



児童の熱心な取り組み



★ 新年度になって1か月 ～みんなの氏家小学校～ ★



自分が住む町たんけん



授業に全集中！

体育科 リレー



学力・学習状況調査



健康教育 身体計測



交通安全教室



命を守る避難訓練



地区別児童会 登校班打合せ



1年生を迎えるなかよし班集会



令和7・8年度 「生きる力を育む歯・口の健康づくり推進学校」

令和7年度から2年間、氏家小学校は、日本学校歯科医師会と栃木県教育委員会から「生きる力を育む歯・口の健康づくり推進事業」の指定を受け、研究を行うことになりました。これまでも、歯や口の衛生についての指導や、日常の習慣作りを継続的に続けていますが、むし歯予防を中心に指導が行われてきました。近年、歯周病や咀嚼・摂食に関わる口腔機能の発達不全や、歯・口の外傷などの課題が指摘されていることに加え、歯周病等の生活習慣病も国民的な課題になっています。今後は、これまでの実践をふまえつつ、更に望ましい生活習慣の形成を目指していきます。そして、生涯にわたって健康な生活をおくるため、歯科保健の充実と児童の生きる力の育成を目的として研究を進めていきます。

【氏小の研究主題】

「課題に気づき、よりよく解決し、ともに健康な生活を実践できる児童の育成」
～生きる力を育む歯・口の健康づくりを通して～



【研究の重点】

(1) 保健教育に基づく授業の充実

- ・各教科等の授業の充実
- ・学校歯科医・歯科衛生士との連携による授業の実践
- ・栄養教諭と連携した授業の充実

(2) 保健教育の充実

- ・氏小元気アップの充実
- ・給食後の歯磨き指導
- ・朝食指導
- ・児童保健委員会の充実
- ・歯と口のけが防止の啓発

【保護者の方へのお願い】

研究にあたって、児童の実態を把握するための児童や保護者対象のアンケートや、家庭との連携による指導の充実を図る取組を行っていく予定です。すでにアンケートのご協力をありがとうございます。よろしくお願いいたします。

学校運営協議会 5月13日(火)

第1回学校運営協議会が開かれました。学校運営に地域の方も参画していただき、教育目標の達成に向けて、協働していくための組織です。子どもたちの授業の様子を見ていただいたり、テーマに沿って熟議をしていただいたりしました。



【学校運営協議会委員】

小堀 良一 様	金子 立 様
荒川 明英 様	佐藤 直道 様
君嶋 敦子 様	鈴木 左夕 様
滝口 尚子 様	石川 博 様
水谷 詩音 様	

「1年間お世話になります」



あいさつ巡回運動 5月14日(水)

今年度第1回目のあいさつ巡回運動が行われました。青少年センターや地域の皆様が早朝から参加し、児童とあいさつを交わしてくださいました。「あいさつが響き合う学校」になるよう

㊦かるく ㊩いつでも ㊤きに ㊩づけて

を合い言葉に実践していきたいと思います。



校長室の窓から

先生にあげる一輪花

花のオレンジ 温かなつし

先日の朝、校門であいさつをしていた私に、児童が「これ、校長先生にあげるね。」と言って、かわいらしいオレンジ色の花を手渡してくださいました。「ありがとうございます。きれいなお花だね。」と言うと、登校途中にその花を摘んだそう、もう一輪も他の先生にプレゼントしています。「なんていうお花かな。」と気にしていたので、「遠い外国から来たお花だよ。」と言うと、「えーすごい。外国から来た花だつて。」と、友達に教えてあげていました。五月に「ナガミヒナゲシ」という、ケシ科の外来種が、あちらこちらで見られます。繁殖力が強いので、周囲の生態系に影響を及ぼす恐れがあると、新聞で読んだことがあります。しかし、とてもかわいい花で、きれいなオレンジ色をしています。子どもが摘んでくれたその花が日本ではあまり歓迎されないとしても、花を手渡してくれた児童が「きれいな花だから先生にあげよう」と思ってくれた気持ちには、その花の色と同じく温かい色をしているなど感じました。これからも「ナガミヒナゲシ」を見たら、その児童を思い出そう。

